

『風は南から』

令和7年度 校長室便り
(12月26日)(第21号)



よい年をお迎えください！

私は、終業式で「9枚の切符」という話をしました。自分の夢や目標を実現するために、入学後誰に対しても平等に公平に9枚の切符が手渡されています。それをどう使うかはあなた次第。皆さんならどう使いますか？つまり、9枚の切符とは、1学期・2学期・3学期の時間の区切りを「切符」に例えたわけです。

3年生に残された切符はあと1枚。2年生は4枚、1年生は7枚しかありません。そう考えると、時間は無限のものではなくて有限であることが実感できます。何もしなくても時間は過ぎていきますが、「時間を過ごす」のはではなくて、意図的に「時間を使う」という感覚を身に付けてほしいと考えています。その使い方として、がん患者の残された詩や日記を参考に、自分の生まれた理由や役割を考え、「自分のため」だけでなく「誰か他の人のため」にもその限られた命（時間）を使ってほしいという話をしました。

今年も残すところあと数日。有意義な冬休みを過ごし、元気な姿で再会しましょう。ではよいお年を！



「復帰の歌」を歌う会

令和5年の奄美群島復帰70周年記念に合わせて、同窓会と両町のご協力で校内に「復帰の歌」の歌碑を建立していただきました。その時に式典を行い、当時の沖高生と職員がどのようにして復帰運動を展開し日本復帰を達成したのかを、当時高校生だった竿田さんと田中さんに講演をしていただきました。その後、当時の先人達の思いを継承するために、終業式の後に『「復帰の歌」を歌う会』を実施しています。今年は、12月24日（水）元沖高の教員であり元県立短期大学教授の西村富明さんに復帰運動の歴史について話をいただき、その後全員で「復帰の歌」を齊唱しました。

復帰運動の原動力になったのが、当時の沖高生（生徒会）だったことを忘れてはいけません。つらい時には「復帰の歌の歌碑」を見ることで、ぜひ気持ちを奮い立させてくださいね。



沖高スポーツデイ

12月23日（火）1・2年生の「スポーツデイ」が行われました。午前中小雨が降っていましたが、天気も持ち直し、計画どおりにバレーボールとサッカー競技で汗を流しました。今回は体育委員の発案で、体育館への入場から始まりました。チーム名がコールされ音楽に合わせて選手がチームごとに行進し、途中決めポーズで写真撮影。イベント満載のスタートで笑顔が溢れていきました。

競技によっては、クラスメンバーだけの単独チームとクラスを超えた混合チームの編成もあり、最後まで白熱した試合で盛り上がったようです。今年最後の学校行事もよい思い出ができました。

大城小学校・住吉小学校

「絵本の読み聞かせ」



12月9日（火）大城小学校の「絵本の読み聞かせ」には、11名が参加し、11日（木）住吉小学校には4名が参加してくれました。住吉小学校が本年度最後で、島内9校全ての小学校を訪問したことになります。ボランティアとして参加してくれた生徒の皆さん、ご協力ありがとうございました。毎回感じることですが、小学生のために読み聞かせをしているつもりが、元気をもらっているのは高校生のようです。「したい、みへでいろど。来年も来てください」と言われると行かないわけにはいきませんよね。

最後の住吉小学校では、卒業生である本校2年生の中野さんに対して、小学生から「質問タイム」がありました。「小学生の時好きな教科は何でしたか？給食は何が好きでしたか？どんな本が好きでしたか？」小学生らしい質問です。彼女の回答の後に「僕も同じ！」という元気な声も聞こえて微笑ましく感じました。きっと将来、あんな素敵な高校生になりたいと感じたと思いますよ。



「令和の日本型学校教育」 理科 公開研究会

12月12日（金）3限目2年1組文系の「科学と人間生活」の授業で、本年度最後の公開研究会を行いました。県教育委員会より高校教育課脇田指導主事をはじめ、小中学校から5名の先生方が参観されました。

今回の授業は、グループ毎に探究活動の中間報告を行い、出された意見をもとに冬休みに取り組む課題を見つけることが目標でした。生成AIも思考ツールとして活用されていて、それぞれが自由なテーマで探究していました。1月の最終発表会が楽しみですね。

県高校揮毫大会 結果報告



12月3日（水）鹿児島市の西原アリーナで行われた第36回県高校揮毫大会にて、書道部の4人が賞に入るという快挙を成し遂げました。その内の3人は、最高賞の高文連賞です。部員は5名ですが、普段から大会を想定して切磋琢磨した結果だと思います。

12日（金）校長室まで結果報告に来てくれまして、1月に奄美市で行われる地区総文祭への意気込みを語ってくれました。おめでとうございます。
(臨書) 高文連賞 宜喜 心さん, 長野 咲恵さん
秀作賞 松瀬 真甫さん
(創作) 高文連賞 皆吉 柚花さん